

5G・IoT・AI コンソーシアム「DXアワード」 エントリーシート

事業名（30字以内）

生成AIを「誰でも使える」に変える！費用ゼロのデバイド対策

応募者情報	
所属名・学校名	山形県南陽市
代表者名	DX普及主幹 佐野毅
住所	南陽市三間通436番地の1

I 事業概要（図表や写真も使用し、内容が伝わるよう具体的に記述ください。）

（1）解決した、解決したい地域課題（自社課題を含む）を具体的に記述ください。

【審査視点：地域性】応募者が取り組んでいる課題がどのように地域社会や自社の問題を解決しようとしているかを明確にすることを目的としています。

▼ 地域社会における「AI活用スキル格差」の拡大と機会損失（地域課題）

都市部の大規模自治体や大企業が積極的に生成AIの導入とスキル習得を進める一方で、本地域のような地方や中小規模の自治体、地域企業、および一般住民の間には、AIを使いこなすための「プロンプト作成スキル」に関する深刻な格差が生じています。この格差は、単なるデジタルデバイドに留まらず、地域経済や行政サービスにおける「イノベーション格差」を拡大させる主要因となっています。具体的には、「プロンプトが難しい」という理由でAI活用を諦めてしまう住民や中小企業が多く、結果として、地域固有の課題解決や生産性向上というAIが持つポテンシャルが未発揮のまま、地域競争力の低下を招くという機会損失の懸念が高まると考えています。

▼ 行政内部におけるAI活用ノウハウの属人化と職員の心理的障壁（自社課題）

庁内の分断と停滞：これまで庁内で生成AIの普及を推進してきましたが、「プロンプト作成の難しさ」によって職員間で「使える人」と「使えない人」の分断が生じ、全庁的な活用が停滞していました。生成AIが個人の基本的な能力差を鮮明にする革新的なツールであるため、この分断を放置することは、組織の士気と業務効率の底上げを阻害すると考えます。

地域への波及と機会損失：市役所内でこの分断が起こるということは、技術者や専門人材が不足している地域社会、特に中小企業や一般住民の間では、より深刻な「AI活用格差」と「プロンプトの壁」が存在し、AIの恩恵を受ける機会が失われていることを意味します。このままでは、地域全体

の生産性向上という AI の最大の利点が発揮されず、格差が固定化される危険性があると考えています。

▼ 人口減少による地域経済の構造的な萎みへの対抗（最重要地域課題）

構造的な危機：明治以来、人口増を背景に膨らんできた地域経済は、生産年齢人口が 2050 年には 2015 年比で 3 割減という予測が示す通り、これから急減に萎縮していくことが予想されます。もはや、この重大な課題に対し、従来の行政サービス効率化に留まる対策だけでは到底対抗することはできません。

「新しい気体」の注入：抜けていく空気（人手）の代わりに、「生成 AI という新しい気体」を地域社会に注入し、生産性の劇的な向上によって、地域経済の萎みを緩やかにする必要があります。しかし、前述の「プロンプトの壁」がこの新しい気体の注入を阻んでいました。

解決目標：本事業は、「プロンプトの難しさ」を解消し、誰でも AI を使いこなせる状態にすることを目指します。これにより、行政・地域企業・住民すべての生産性を向上させ、人口減少に負けない、地域社会全体で AI を活用する仕組みを確立します。

本事業は、「プロンプトの壁による AI 活用者の分断」「行政内部のノウハウ属人化」、そして「人口減少による地域経済の構造的な萎みの懸念」という三重の課題に対し、費用ゼロで高品質なプロンプトを公開するという、画期的かつ即効性のある解決策を提示するものです。特に、行政がノウハウを秘匿せず、分断を解消するためにすべてを公開するというこの方針は、AI による生産性向上という「新しい気体」を地域全体に注入し、人口減少社会に抗うための基盤となると考えます。

▼ 2025/10/22 現在で、613 例のプロンプトを市のホームページで公開し、生成 AI デバイド対策を行っています。

子育て支援宣言都市なんよう

▶ サイトマップ

南陽市 Nanyo City

ホーム > 行政情報 > 市役所の組織 > みらい戦略課 > DX調整係 > 一発OK!! 市民も使える！生成AI活用実例集（プロンプト集）613例

一発OK!! 市民も使える！生成AI活用実例集（プロンプト集）613例

南陽市ではデジタル技術を活用して、市民の皆様の生活をより便利にする取り組みを進めています。

その一環として、実際に業務で使っている生成AIのプロンプトを市民の皆様に公開します。

生成AIは、人工知能の一環で、文字や画像、音楽などを自動で生成できる技術です。

南陽市では、2023年4月より生成AIの活用実証実験を行い、2024年4月より正式運用を開始しました。

今回公開するプロンプトは、WEBフォームに必要な情報を入力するだけで、簡単に生成AIのプロンプトが作れるようになっています。

【使い方】

①フォームに必要な項目を入力し画面下にある「プロンプト作成」をタップします。

②ご使用の生成AIを開き、入力欄に貼り付けて実行します。

（※フォームからは直接、生成AIプロンプトを実行できませんのでご注意ください。）

今回の公開は、地域のデジタル化推進及び生成AIのさらなる可能性を探求するきっかけになればと考えております。

また、単にAIを使うだけに留まらず、【AIを戦略的に使う】ことを目指しています。

（なお、この公開は地域DXの推進として試行的に行うものであり、公開を中止する場合があることをご了承ください。）

■ 業務において生成AIを活用できる例（自治体業務以外でも使えます）

プロンプトの選択に迷ったら、こちらのプロンプトをお使いください

- 370 AIを使って、希望のプロンプトを探す
- 583 やりたいことをプロンプトに変換する
- 539 生成AI対話エージェント
- 573 ファクトチェック支援

【カテゴリ】

#文章作成・要約 #文書校正・編集: #アイデア創出・企画: #業務改善: #情報収集・分析: #コミュニケーション支援: #プログラミング: #意識改革・スキルアップ: #その他: #生成AI

【文章作成・要約】

【文書作成】

■ 文書作成・編集

- ◆ 文書作成・起案
- 005 文章案を作成
- 056 新聞記事・学校新聞・学校だよりなどの原稿を作成する
- 114 偽数の文章を統合し、一貫性のある文章を作る
- 118 ホームページなどのサービス説明文を作成する
- 120 具体的な成果につながるコンテンツを制作する
- 121 インフォグラフィック用テキスト作成
- 284 季節と状況に応じたビジネス定型文作成

（2）課題を解決するために、どのようなデジタル技術を活用していますか。具体的な活用方法に加え、事業化に至った革新的な視点やアイデアも含め記述ください。

【審査視点：デジタル活用・革新性】デジタル技術の具体的な活用方法と革新性について説明してください。これにより、単なる技術導入ではなく、イノベーションの観点も評価します。

本政策は、主に「生成 AI 技術（LLM）」および「ウェブ技術（JavaScript）」、そして「ウェブ分析技術（Google Analytics）」の三つの既存技術の連携により実行されており、新たな高額なシステム開発は行っていません。

▼ 生成 AI 技術（LLM）の活用：

具体的な活用方法：職員が日々の業務で実際に使用し効果が確認された 600 を超えるプロンプトを、生成 AI（LLM）の能力を最大限に引き出すための「知見の結晶」としてホームページで公開しました。さらに、利用者が目的のプロンプトを容易に見つけられるよう、「プロンプトを検索・生成するプロンプト」自体も提供することで、LLM の利便性を高めるツールとして機能しています。

ユーザーは、普段利用している、又は無料で利用できる生成 AI サービスに、生成されたプロンプトを入力（コピー、貼り付け）することで簡単に生成 AI から、自分の期待どおりの出力を得ることができます。

▼ ウェブ技術（JavaScript）の活用と革新的な UI：

具体的な活用方法：従来の PDF や静的なリスト形式での公開を避け、既存の自治体ホームページ上に、JavaScript を使ってのウェブフォームを実装しました。このフォームは、利用者が簡単な選択肢や情報を入力するだけで、その場で最適なプロンプトコードを自動的に生成し、出力する仕組みとなっています。これにより、利用者はデバイスや場所を選ばず、いつでもどこからでも高品質なプロンプトにアクセス・利用可能となり、利便性を徹底的に追求しました。

▼ ウェブ分析技術（Google Analytics: GA）の活用：

具体的な活用方法：GA を用いて、プロンプト公開ページへのアクセス数、利用者の滞在時間、どのプロンプトが最も利用されているか（試行者の数）、および利用者の地域特性を継続的に定量分析しています。このデータは、単なる閲覧数を測るだけでなく、プロンプトの陳腐化防止のための見直しや、ユーザー需要に基づく新規プロンプト開発の意思決定に直結する「政策の PDCA サイクル」の核として機能しています。

(3) 事業効果および実績（収益や経費削減効果など）を具体的に記述ください。

【審査視点：事業実績】実際のビジネス効果や成果を評価することで、導入したデジタル技術の有効性を測ります。

▼ 本政策の最もユニークな点は、生成 AI 活用における最大の障壁である「プロンプト作成スキル」を、行政が保有する「業務ノウハウ」という形で提供したことです。

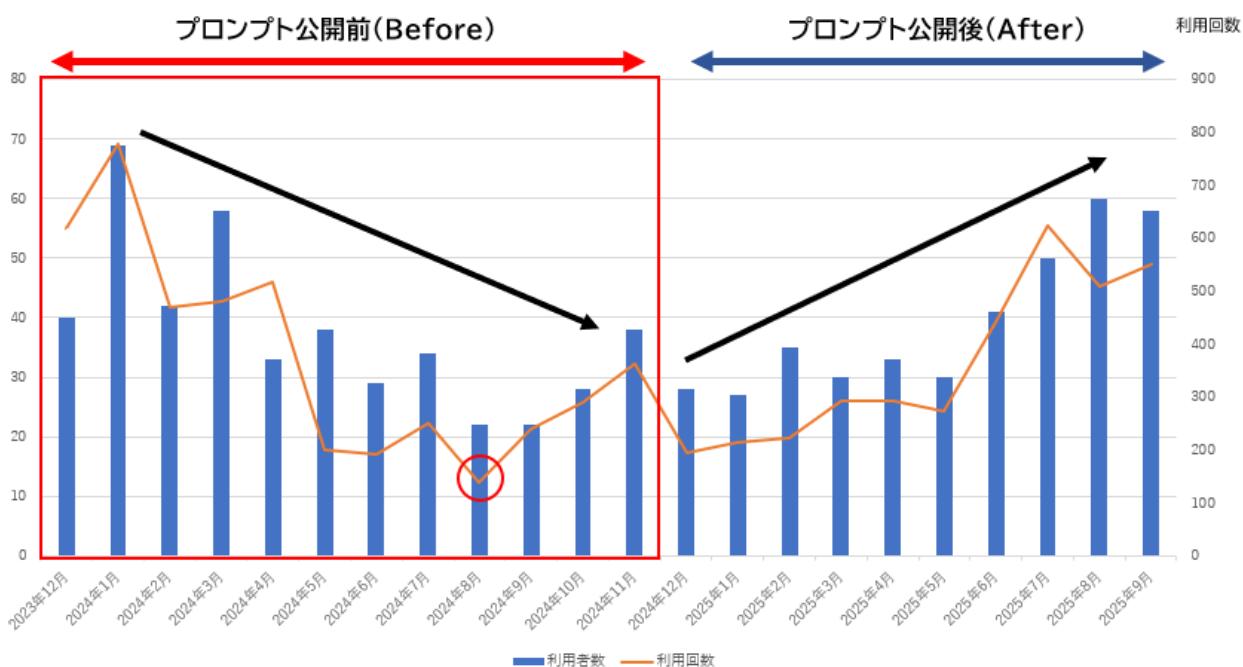
一般的に従来の AI 活用支援が概念的な研修や高額な外部ツール導入に終始しているのに対し、我々は行政の信頼性と実績のあるノウハウを「知の公共財」として公開しました。

特に、この公開においては、単にプロンプトを PDF などの書類形式で提供する従来の公開手法ではなく、徹底的に利用者視点（UI/UX）に基づいたウェブフォームの仕組みを導入しました。

これにより、利用者はデバイスや場所を問うことなく、誰でも、どこからでもウェブフォームにアクセスすることが可能となり、時間や場所の制約を受けずにいつでもプロンプトを生成・活用できるという、利便性を追求しました。

■ 組織と個人の変化

Before: 生成 AI の利活用は、先進的な一部の職員や企業に限定され、「プロンプトの壁」によって恩恵を受けられない層が大多数を占めていると考えました。はじめは物珍しさもあって多くが利用していましたが、時間の経過とともに利用者が減少していきました。



◆ 市役所内部の生成 AI 利用状況

Before/After (直近3ヶ月平均)	生成 AI 利用者数	生成 AI 利用回数
プロンプト公開前 (6年9月,10月,11月)	24人/月	223回/月
プロンプト公開後 (7年7月,8月,9月)	56人/月	560回/月

After:

○行動の変化:

官民問わず、誰もが質の高いプロンプトをコピペ・改変するだけで、AIを使いこなせるようになり、「生成AIは難しい」という固定観念を払拭。AI活用の敷居が極めて低くなり、試行者の増加につながりました。昨年同時期に比べて、各数値が倍以上になった。

○組織成果の変化:

行政内部では、プロンプトの横展開により、定型業務における時間削減効果が全体に波及。職員のデジタルリテラシーの均質化が促進され、組織の「チャレンジを是とする文化」が醸成されました。

■ 成果とインパクト

「プロンプトを利用した人数」と「プロンプト提供回数」を主要な成果指標（KPI）として、政策のインパクトを明確にします。



	月間利用者数(人)	月間プロンプト提供数(回)
2024/11	714	12,736
2024/12	1,552	26,330
2025/01	3,729	61,566
2025/02	2,553	39,518
2025/03	2,274	27,099
2025/04	1,553	25,554

2025/05	1,948	36,767
2025/06	1,977	35,665
2025/07	1,919	33,900
2025/08	2,180	36,975
2025/09	1,870	31,302

2025/01 期は時事通信社の記事掲載により、一時的な利用増となつた。

KPI 実績目標: 公開後 3 ヶ月で、プロンプトの月間利用者数を 3729 人／月、プロンプト提供 61,566 回／月を達成。9 月現在でも、月間利用者数 1870 人／プロンプト提供数 31,302 回／月となつています。

社会的インパクト: プロンプトの公開は、地方の中小企業や個人事業主にとって、高額なコンサルティングや研修を受けることなく AI を導入するきっかけを提供します。

この「AI 活用の初期投資ゼロ」の環境が、地域経済全体のデジタル競争力を底上げする波及効果を生み出します。

(4) この事業で新たに導入した工夫や改善点、その効果について具体的に記述ください。

【審査視点：革新性】新たな取り組みや改善点がどのように課題解決に貢献し、新しい価値を生み出したかを評価します。

▼この事業では、単なる情報公開に終わらせず、社会課題の根本解決と利便性の最大化を目指し、以下の二点において革新的な工夫と改善を導入しました。

1. 従来の慣習を打ち破る革新的な情報提供形式の採用

従来の自治体における業務ノウハウの公開は、PDF ファイルや静的なリスト形式が主流であり、利用者にとっては目的の情報を探しにくく、自身の課題に合わせてカスタマイズする手間が大きいという課題がありました。これに対し、私たちは UI/UX（利用者体験）を徹底的に追求した動的なウェブフォームを導入するという、行政としては革新的な改善を行いました。

具体的な工夫 : プロンプトのテンプレートをそのまま公開するのではなく、利用者が「誰に向けて」「何のために」といった必要事項をフォームに入力するだけで、最適化されたプロンプトコードが一発で自動生成される仕組みを構築しました。

① ホームページでプロンプトの一覧を表示。ユーザーは任意のプロンプトを選択。

南陽市 Nanyo City

行政情報 > 市役所の組織 > みらい戦略課 > DX 調整係 > 一発OK!! 市民も使える！生成AI活用実例集（プロンプト集）601例

一発OK!! 市民も使える！生成AI活用実例集（プロンプト集）601例

今回の公開は、地域のデジタル化推進及び生成AIのさらなる可能性を探求するきっかけになればと考えております。また、単にAIを使うだけに留まらず、「AIを戦略的に使う」ことを目指しています。（なお、この公開は地域DXの推進として試行的に行うものであり、公開を中止する場合があることをご了承ください。）

この件で質問したい方、「こんなプロンプトが欲しい」などのご要望等は [こちら](#)（よくある質問フォーム）からお願いします。

■ 業務において生成AIを活用できる例（自治体業務以外でも使えます）

プロンプトの一覧（リスト）

プロンプトの選択に迷ったら、こちらのプロンプトをお使いください

- 370 [AIを使って、希望のプロンプトを探す](#)
- 583 [やりたいことをプロンプトに変換する](#)
- 539 [生成AI対話エージェント](#)
- 573 [ファクトチェック支援](#)
- 114 [複数の文章を統合し、一貫性のある文章を作る](#)
- 118 [ホームページなどのサービス説明文章を作成する](#)
- 120 [具体的な成果につながるコンテンツを制作する](#)
- 121 [インフォグラフィック用テキスト作成](#)
- 284 [季節と状況に応じたビジネス定型文作成](#)
- 307 [参加者を魅了するワークショップ告知文の作成](#)
- 518 [最高のビジネスライティング](#)
- 552 [エモーショナルライティングによる文章の感情的訴求力向上](#)

◆ 庁外文書・広報

- 021 [メンバー周知用文書の作成](#)
- 320 [ターゲットに向けたICTツール活用ガイド](#)
- 386 [行政手続き案内パンフレットの作成とデザイン](#)
- 576 [AIDA法に基づいた広報文生成](#)
- 577 [感情を動かし、行動を促す広報文作成](#)
- 578 [顧客の感情を動かす体験型ストーリー作成](#)
- 579 [希少性と緊急性を活用した広報文](#)
- 580 [社会的証明を活用した効果的な広報文作成](#)
- 581 [損失回避の心理を活用した広報文](#)

◆ その他

- 005 [文章案を作成](#)
- 056 [新聞記事・学校新聞・学校だよりなどの原稿を作成する](#)
- 114 [複数の文章を統合し、一貫性のある文章を作る](#)

② プロンプト作成画面が表示され、色のついた箇所に情報を入力後、プロンプト作成ボタンを押すとデータ（作成プロンプト）がクリップボードにコピーされる。

#005_文章案を作成

目的・ねらい

このプロンプトは、与えられたテーマに対して、読者に分かりやすく、かつ魅力的な文章を作成することを目的にしています。

実行指示

あなたは、市役所に勤務するペテランの公務員です。以下の「文章タイトル」と「文章作成の目的」を深く推察し、制約条件を満たした最高の文章を提出してください。文章を書く時は以下のルールを忠実に守ってください。

ルール

- 話を膨らませて、
- 実例を交えて、
- 同じ語尾を3回連続で繰り返さないこと
- 難しい専門用語を使わないこと
- 分かりやすく説明すること
- できます調で書くこと
- 漢字・ひらがな・カタカナの割合は「2:7:1」であること
- （目標とする字数）内で書くこと
- この文章を読むことで得られるベネフィットを書くこと

変数設定

文章タイトル

文章タイトルを入力してください

文章作成の目的

文章作成の目的を入力してください

文章の内容

文章の内容を箇条書きで入力してください

目標とする字数

目標とする字数を入力してください

補足

指示の復唱はしないでください。
自己評価はしないでください。
結論やまとめは書かないでください。

戻る

プロンプト作成

クリップボードにコピーされます。

①ピンクの枠にそれぞれ入力し、
②最後に「プロンプト作成」ボタンを押す。
③クリップボードにプロンプトが
コピーされる

③ ユーザーが普段から使っている生成AIサービスにクリップボードのデータを貼り付けし、生成AIからの出力を得る。

その効果： この仕組みにより、利用者はプロンプト組み立ての複雑な基礎知識を持たずとも、デバイスや場所の制約を受けてずに、いつでもどこからでも高品質なプロンプトを活用できるようになりました。これは、特にデジタルリテラシーに不安を持つ層や、地域において情報格差に直面している人々にとって、AI 活用への心理的・技術的障壁を劇的に低減させ、「プロンプトの民主化」という新しい価値を生み出しました。

2. コストをかけずに持続可能な政策評価と改善の仕組み化

新しい事業を始める際、その効果測定や継続的な改善のための費用が大きなネックとなります。この事業では、既存のデジタル技術を連携させることで、コストをかけずに持続的な政策運営を可能とする工夫を凝らしました。

具体的な工夫： 新規の分析ツールを導入せず、既存のウェブ分析技術（Google Analytics）を活用し、アクセス数だけでなく、「プロンプト生成フォームの利用率（試行率）」や「人気のあるプロンプトカテゴリ」といった行動データを定量的に把握する仕組みを構築しました。さらに、プロンプトは時間とともに LLM の進化によって陳腐化するという問題に対し、このデータとユーザーからの直接的な「プロンプト作成依頼」を組み合わせて、常に最新の LLM に合わせてプロンプトを見直す運用体制を組み込みました。

その効果： これにより、高額な費用を投じることなく、公開したプロンプトの品質と利用価値を継続的に維持・向上させることが可能となりました。利用者ニーズをダイレクトに反映できるため、行政サービスとしても利用者の満足度を高め、一過性の施策で終わらない持続的な政策サイクルという新しい価値を確立しています。

（5）この事業が地域や他事業などへの影響や展開の可能性について記述ください。

【審査視点：展開度・地域性】事業の拡張性や他の地域・分野への影響、展開の可能性を評価します。これにより、持続可能性や広がりを確認します。

▼ 組織内展開（横展開）：

本プロンプト集は、単なる業務ツールの提供に留まらず、職員がプロンプト組み立ての基礎構造を学ぶことや、生成 AI をどのように使っていいかわからない層のための実践的な学習ツールとして活用しています。

具体的には、このプロンプト集を徹底的に分析・利用することで、職員自身がプロンプトの論理的な組み立て方を習得し、自力で高度なプロンプトを作成できるようになることを目指します。これにより、AI 活用スキルを組織の共通基盤能力として定着させます。

▼ 地域内展開（勉強会・体験会によるスキル定着支援）：

プロンプト集の公開は、地域経済を支える中小企業や個人事業主にとって、AI 導入の初期障壁を完全にゼロにします。行政が率先して生成 AI 活用のノウハウを公開し続けることで、地域全体のデジタルリテラシーが向上しますが、これを確実なものとするため、地域内のスキル定着支援を具体的に展開します。

具体的には、公開したプロンプトを教材として活用し、プロンプト勉強会や体験会などを地域内で開催します。これにより、AI 活用に自信がない層の心理的な壁を取り除きます。「AI という新しい技術」が、地域内の産業や他分野にも確実に波及し、地域全体の競争力をボトムアップで牽引する効果が見込まれます。

▼ 全国展開（モデル化と知の共有）：

本事業の目標は、「プロンプト公開による AI 分断解消」という成功体験を、他の自治体へと水平展開し、来るべき AI 時代への備えを全国の自治体とともに進め、全体の生産性向上に貢献することです。

私たちは、プロンプトの公開から運用、そして更新に至る全ての運用モデルを、他の自治体でも使えるよう詳細に公開しています。これにより、当市が費用ゼロで分断を克服し、AI 時代のデジタル基盤を早期に確立したように、他の自治体も同様の低コストで、かつ迅速に AI 活用支援策を実行することが可能になります。

この「ノウハウのオープン化」を通じて、他の自治体が直面する課題解決を加速させ、全国の地域社会で AI 活用が当たり前になるための強力なリーダーシップを発揮します。

【締め切り】2025年10月30日（木）

【お問い合わせ・申し込み先】

5G・IoT・AI コンソーシアム事務局（山形新聞社ビジネス開発戦略部内）

電話：023-666-5121（平日 9 時 30 分～17 時）

メール：biz@yamagata-np.jp